

# CAMPUS HEALTH

2017.5

54 (2)

特集：大学国際化における学生支援  
論文集



Japan University Health Association

# 目 次

## 巻頭言

巻頭言	河 邊 博 史	1
-----	---------	---

## 特集 《大学国際化における学生支援》

大学の国際化と保健管理	山 本 眞由美	2
留学生の健康情報把握と修学支援について	富 樫 整ほか	4
留学生へのオリエンテーションと健康教育	岩 崎 泰 正	10
留学生の日本滞在中のフィジカルヘルス	鈴 木 眞 理ほか	14
留学生のメンタルヘルス	丸 谷 俊 之ほか	18
留学生を含めたメンタルヘルスのスクリーニング	佐々木 恵	24
留学生家族に関わる各種社会保障制度	西 尾 彰 泰	30
大学国際化における立命館アジア太平洋大学の学生支援	辻 井 英 吾	35
グローバル化時代の海外渡航前オリエンテーション, 健康教育 －情報収集, 各種証明書, 常備薬について－	横 山 裕 一ほか	41
海外留学中のフィジカルヘルス	小 林 大 介ほか	47
海外留学で注意すべき感染症対策	中 川 克	52
大学におけるトラベルクリニックのすすめ	柳 元 伸太郎	58
日本人大学生の留学中におけるメンタルヘルスについて－佐賀大学における現状と対策－	佐 藤 武ほか	64
大学の海外危機対策と医療文化－現場からの報告－	酒 井 悦 嗣	70
オレゴン州立大学における健康管理の現状	足 立 由 美	76
包括的なカレッジヘルスプログラムのためのフレームワーク	吉 川 弘 明	82
国際連携委員会の取り組みについて－大学の国際化に対応するために－	山 本 眞由美	96

## 原著論文

学生の健康診断に対する理解度と受診率－受診率向上を目指して－	工 藤 欣 邦ほか	100
大学生の運動習慣に関する調査研究－プレメディカルケア構想の推進に向けて－	杉 浦 雄 策ほか	106
学生・教職員を対象とした禁煙外来の取り組みと今後の課題	工 藤 欣 邦ほか	113
職員の尿中コチニン測定による大学敷地内全面禁煙前後の受動喫煙状況の比較	岩 崎 良 章ほか	119
キャンパス全面禁煙4年後の状況調査	工 藤 成 史ほか	125

保健医療福祉系大学生における栄養素摂取の現状と課題	坂本 めぐみほか	131
子宮頸がん予防に関連する葉酸などのリスク因子とその評価	川原 由佳子ほか	137
新入生の健康感・満足度調査と卒業までの退学・休学・留年	大見 広規ほか	143
大学で実施する PHQ-9の呼出基準についての考察～質問項目 9 と合計得点～	武田 弘子ほか	149
留学生のキャンパス内の精神科受診傾向についての検討	井崎 ゆみ子ほか	155
対処行動エゴグラムを用いた学部新入生のストレス対処行動の実態の検討：影響因との関係	堀田 亮ほか	161
大学生のメンタルヘルスと学生生活支援（2）－学生相談事例集「ほっと Café」の作成－	菊池 美千代ほか	167
新入生健診におけるメンタルヘルスチェック尺度の年次比較－3年間の性別，学部別分析－	足立 由美ほか	173
大学新入生の居場所概念に関する研究－自由記述のテキストマイニング－	安達 奈緒子ほか	179
大学生を対象とした日本の自殺予防研究に関する系統的レビュー	太刀川 弘和ほか	186
地方中規模私立大学における障害学生支援体制の構築プロセス	荒木 史代ほか	192
発達障害学生の修学支援に関する教員の認識の変化 －障害学生支援部署設置前後の2回の質問紙調査から－	早坂 浩志ほか	198
ASD 関連困り感尺度の妥当性の検討：診断の有無による得点の比較	高橋 知音ほか	204
大学における休学・退学・留年学生に関する調査第37報－平成26年度分集計結果から－	布施 泰子ほか	211
全国国立大学大学院学生の病死，事故死の状況について－13年間の調査より－	丸谷 俊之ほか	217
男性看護師のストレス要因の検討－ストレスチェックを利用して－	久保 位可子ほか	223

## 症例報告・報告

学内にて自動体外式除細動器を含めた心肺蘇生法により救命しえた事例	小室 安宏ほか	230
水田活動後に発症したセルカリア皮膚炎	早坂 真貴子ほか	234
複合的な支援が有効だった超高機能 ASD 学生の一例	綱島 三恵ほか	239
保健医療福祉系学生の食生活と健康生活習慣	鈴木 幸子ほか	245
大学における障害学生修学支援に関する調査報告	吉原 正治ほか	252
米国大学保健管理協会年次集会 ACHA2016の参加報告	山本 眞由美ほか	258
カリフォルニア大学デービス校の Student Health & Wellness Center と Student Disability Center の視察報告	山本 眞由美ほか	264

機関誌編集委員会からのお知らせ	272
CAMPUS HEALTH (2) 投稿規定 (投稿論文チェックリスト, 承諾確認書)	273
あとがき	278

## 巻頭言

公益社団法人全国大学保健管理協会理事 河 邊 博 史  
慶應義塾大学 保健管理センター所長

慶應義塾の創立者である福澤諭吉先生は、当時の日本の近代化に必要な新しい教育を、欧米視察を繰り返すなかで学び、以来国際交流は慶應義塾の原点となっています。1964年に全国の大学に先駆けて国際交流業務を集中的かつ専門的に司る組織として“国際センター”を設立し、海外の大学との交換留学制度の運営、春季・夏季の短期研修プログラム、受け入れ留学生の生活支援などの諸事業を展開しているのはその一つの現れです。大学生が海外を体験し、世界の人々と交流する機会は今後ますます増加し、一方世界各国から日本の大学を訪れる留学生も増え、異文化交流の輪は確実に広がっていきます。従って、大学国際化はこれから避けられない課題であり、大学の規模に関係なく、今後は社会全体が国際化に向かっていくと思われます。現在はず、海外からの留学生数を増やそうという方向で動き出していますが、同時に留学生が増えることによる課題への対応も考えておかなければなりません。その一番身近な問題が健康支援ではないでしょうか。一方、日本人学生の海外留学に際しても健康支援は重要で、最近では危機管理などで新たな課題も出てきています。

ところで、今回の特集テーマは、まさに上述した課題に対し、岐阜大学の山本眞由美先生を中心に企画された「大学国際化における健康支援」であります。海外からの留学生に対しては、留学中の健康診断をどうするか、日本の医療制度をどう説明するか、少なくとも英語で対応してもらえる診療所や病院をどう探すか、メンタル面の問題が起こった時にどうするか、場合によっては留学生家族に関わる問題なども出てくるでしょう。また、日本から海外へ行く留学生には、渡航前にどのようなオリエンテーションを行い、正確な情報収集の方法や必要な証明書についての指導、海外でのメンタルヘルスに関する対処法、留学中に行う自己健康管理法や最低限の救急対応法、また、最近では海外での危機管理対策や医療制度の違いの教育なども必要になります。今回はこのような幅広い分野について、経験もあり、実際大学で対応されている先生方にご執筆いただきました。医学の進歩は急速であり、特に予防接種や感染症に関しては、雑誌や本では十分対応できない部分も増えています。そこで、それを補うには、正確な最新情報が得られるサイトの提示が重要となりますが、今回の特集ではその点への配慮も加えられています。本特集の内容が、海外からの留学生受け入れ時や、日本から海外へ旅立つ留学生の出発前の不安解消や留学中の対応に役立つことを期待しています。